

昭和興産は2012年度（12月期）までの中期3カ年経営計画のなかで、海外ビジネスの拡大に取り組む。重点市場と位置付けるアジア地区での売上高比率を10%に引き上げることが目標とし、現地法人の機能強化を図るほか、新たな海外拠点開設も検討している。日本国内事業については、環境配慮型商材など「伸びる分野」に集中していく（沢瀉一雄社長）ことで維持拡大を図る方針で、日本とアジアで活躍できる事業基盤を構築する。

新3カ年計画「Strong & Change 2012」は今年度を初年度とする。そのなかでアジアの売り上げ比率拡大は重点テーマの1つ。具体的には、タイ(バンコク)、上海、香港の3現地法人の売上高比率を、現在の5%から12年度に10%まで高める。

アジア売上高比率を拡大

目標達成へ向けた取り組みとして、まず上海とタイの現地法人では人員をそれぞれ1名増員する方向で検討を開始している。中国・華南地区に駐在スタッフを配置する構想もある。

昭和興産は合成樹脂、化学品、情報電材、産業資材の各事業を手掛ける。09年度の業績は08年秋以降の世界的な景気冷え込みなどが響き、売上高が大幅に減少した。ただ足下では「自動車や情報電材、一般消費財の分野が回復してきた」という。

今後は、環境配慮型製品など成長分野に焦点を当てた事業展開にも力を入れる方針。この一環として、太陽光発電関連、自動車関連、機能樹脂、バイオプラスチック、ノンハロゲン化難燃剤、LED関連の6チームからなる全社横断プロジェクトを推進している。